

国語 第2学年 せかい一の話 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：昔話の読み聞かせから人物の行動と出来事の順を捉え、面白いと感じたところを伝える。教訓を一つに決めることを目標にしない。C(1)力の学習として、人物の行動と印象に残った出来事、自分の感想を示す絵や短い文。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、読んで感じたことや分かったことを、人物の行動を挙げて友達と共有しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)力の姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：人物の行動と印象に残った出来事、自分の感想を示す絵や短い文を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)力に関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：話を聞かずに知っている別の版の出来事を混ぜる、よい子になる話としてまとめる。これに対して、今回読む版の人物と出来事を絵カードや短い自作文で順に整理する。原文や教科書の挿絵は転載せず、教師の範読と教材を手元で確かめる。〔知識及び技能〕(3)アとC(1)力を切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「心に残った出来事はどこですか。人物は何をしましたか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)力に関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：人物の行動と印象に残った出来事、自分の感想を示す絵や短い文は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)力の評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)力で目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、練習と使えるようになった姿をどう分けるか。

返し：今回読む版の人物と出来事を絵カードや短い自作文で順に整理する。原文や教科書の挿絵は転載せず、教師の範読と教材を手元で確かめる。完成品だけでなく、人物の行動と印象に残った出来事、自分の感想を示す絵や短い文。を見て、確かめ方と変えた理由を判断する。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「心に残った出来事はどこですか。人物は何をしましたか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)力に関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

